

平成 28 年度 第 1 回 佐渡市総合教育会議 議事録

開催日	平成 29 年 1 月 16 日(月)	会場
開会時刻	午後 3 時 00 分	金井コミュニティセンター 2 階 大会議室
閉会時刻	午後 4 時 30 分	
出席者		
市長 三浦 基裕	教育委員会 委員長	佐藤 辰夫
	教育委員会 委員長職務代理者	仲川 正道
	教育委員会 委員	金子 眞理
	教育委員会 委員	中村 友子
	教育長	児玉 勝巳
説明のため出席した職員		
総務課 課長補佐 北見 和子	学校教育課 課長 管理主事 課長補佐	吉田 泉 山田 裕之 伊藤 賢治
	社会教育課 課長	越前 範行
傍聴人数	2 人	

会議に付議した議題

- (1) 教育振興基本計画について
- (2) 学校統合について

<ul style="list-style-type: none"> ・ 吉田学校教育課長 ・ 三浦市長 	<p>◎本総合教育会議は、午後 3 時 00 分から開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本日はご多用の中、また足元の悪い中、平成 28 年度第 1 回総合教育会議にご出席いただき、ありがとうございます。定刻になりましたので、会議を開催させていただきます。 ・ なお、本会議につきましては公開しておりますので、よろしくお願いたします。 ・ それでは、開会に当たりまして、三浦市長、佐藤教育委員長よりご挨拶をいただきたいと思います。 ・ まずは、三浦市長よりお願いいたします。 ・ 皆様、本日はどうも足元の悪い中ご足労願いまして、本当にありがとうございます。これからちょっといろいろまた意見をいただきながら進めたいと思いますが、27 年度にこの会議の中で教育大綱を作成させていただきました。それを踏まえた具体案的な教育振興基本計画の策定は 28 年度中という計画になっておりました。残りもう 2 か月余りということで、若干、最終着地のスケジュールも含めて、もう一度ちょっと皆様のご意見も踏まえて、最後の詰めを、させていただければというふうに思います。 ・ それと、もう一つ、大きい提案の学校統合につきましても、ここの会議の中では忌憚のない意見をどんどん出していただきながら、丁寧な統合計画等の部分を詰めていきたいと思います。忌憚のない意見交換を踏まえて、きめ細かな計画というふうに落としていきたいと思います。これまでの計画の中でも計画どおりに全部統合し切れていない部分とかも出てきておりますので、その辺は改めてご意見を伺いながら、丁寧にやらせていただければと思いますので、本日よろしくお願いたします。今日はありがとうございます。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 吉田学校教育課長 ・ 佐藤委員長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 佐藤委員長、お願いします。 ・ 改めましてご免ください。新年明けての平成 28 年度の第 1 回目、初めての総合教育会議が開催されます。ここにお集まりの皆さんお一人お一人が待ちに待っていた、さあ、いよいよだなと、気持ちを新たにされていることであろうというふうに拝察いたします。私も何か清々しい気持ちになっております。 ・ 改めて一昨年、平成 27 年の地教行法の改正、施行に伴う総合教育会議の設置の幾つかあるポイントの中から 1 つ 2 つを思い起こせば、その 1 つは教育委員会の審議の一層の活性化であり、そして迅速化であり、2 つ目は地域、佐渡島民の民意の代表であられる三浦市長様と教育委員会との連携の強化であろうと、こういうふうに認識しているところであります。さらに、改正の大きな柱に首長による教育に関する大綱の策定がありますが、今ほど市長様がお話しいただきましたように、昨年度、市長、教育委員会の皆様が協議を重ねられて、検討、調整を尽くされて、佐渡市の教育大綱を策定いただいております。今年度の教育委員会、私どもに課せられている課題は、これを

<ul style="list-style-type: none"> ・ 吉田学校教育課長 ・ 仲川委員 ・ 金子委員 ・ 中村委員 ・ 児玉教育長 ・ 吉田学校教育課長 ・ 三浦市長 ・ 山田管理主 	<p>具現化するための佐渡市教育振興基本計画を定めるということでもあります。教育委員会では今年度2名交代がございまして、この教育振興基本計画の施策内容が多岐に渡るため、事務局のご尽力をいただいて、昨年の秋、10月より5回ほど勉強会をもってまいりました。学校教育課、社会教育課のみならず、総合政策課、その他の関係機関とも協議・検討を要する内容も多々ございます。佐渡市としての教育政策に関する方向性がより一層明確化できますよう、三浦市長様におかれましては高所大所よりご示唆、ご指導をよろしくお願い申し上げます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今日の総合教育会議を皮切りに、今年度中に一回でも多くこの会議を設定いただいて、教育行政の迅速化、効率化、そして佐渡の現在、未来を担う人づくり、地域づくりに繋がる教育政策が共有できることを心から祈念して、また期待申し上げて、挨拶といたします。よろしく願いいたします。 ・ ありがとうございます。 ・ 続きまして、教育委員の皆様から自己紹介をお願いいたします。 ・ 教育委員長職務代理者の仲川でございます。昨年からお世話になっておりまして、2年目であります。よろしくお願いいたします。 ・ 小木地区在住の金子眞理と申します。よろしくお願いいたします。 ・ 畑野地区におります中村友子と申します。よろしくお願いいたします。 ・ 教育長の児玉でございます。教育長を拝命してから3年目になっております。よろしくお願いいたします。 ・ 本日の議題でございますが、先ほど市長もお話しされておるとおり、1点目の教育振興基本計画についてであります。現在その計画を策定しておる最中でございます。その進捗状況並びに今後のスケジュール等につきましてご報告をさせていただきます。 ・ 2点目の学校統合についてでございます。現在進めております統合につきましましては、平成18年に策定をしました佐渡市小学校・中学校統合計画に基づいているところでございますが、計画の策定より10年を経過し、社会情勢の変化等も見られるということから、計画の見直しの必要性につきまして、昨年度の総合教育会議の中でご協議、ご確認いただいたところでございます。本日は、素案ではございますが、見直しの方向性ということでお示しをしたいと考えておりますので、ご協議をお願いいたします。 ・ それでは、議事の進行につきましては、佐渡市総合教育会議運営要綱第3条第2項の規定によりまして、三浦市長をお願いいたします。よろしくお願いいたします。 ・ それでは、よろしくお願いいたします。 ・ では、早速議題に入らせていただきます。議題の1番目、教育振興基本計画についての協議をさせていただきます。今日は、計画策定の進行状況等について、まず確認していきたいと思っております。そのところ、事務局の方から説明をお願いいたします。 ・ 学校教育課管理主事、山田裕之と申します。座って説明をさせていただ
--	--

事

きます。

- それでは、資料ナンバー1番、佐渡市教育振興基本計画作成についてというレジュメに基づいて説明をします。まず、この教育振興基本計画ですが、先ほど市長のご挨拶の中にもありましたように、昨年度定めた教育大綱をもとに、本市の、さらにそれを具体的な施策を進めるために教育振興基本計画を28年度末までに目標に作成しようということで現在取り組んでおります。
- どのような内容になるかということにつきまして、1番から順番に説明していきたいと思います。まず、作成者ですが、佐渡市及び佐渡市教育委員会とします。これまでの教育行政は今大きく変わっております、教育委員会だけで完結できない内容のものもたくさん入っております。当然、教育施策を進める中で市長部局と業務連携して進めていかなければいけないところもたくさんありますので、佐渡市及び佐渡市教育委員会として作成していきたいと思っています。
- 2番、容量ですが、市町村によってはいろいろな厚みのものがあるようでございますけども、佐渡市の場合は5年に1回改定するという前提でこれから作っていくというふうに考えておりますので、コンパクトな仕様なものということで考えております。コンパクトにすることによって、改定もその都度柔軟にできますし、また誰からも気軽に見てもらえ、常に教育現場の人間は持ち歩いて確認をすることができるような、そういうものを目指しております。
- 3番、構造ですが、佐渡市教育大綱の中に、「4 基本目標」として6つの目標を掲げました。この目標ごとに、どのような施策を行うかということについて施策を掲げ、なおかつ達成の数値目標も最後に評価として上げていきたいというふうに考えています。
- 4番、書式（項立て）ですが、1番、策定の趣旨から、そこに書いてあるようになっております。2番、教育理念、3番、教育方針、4番、基本目標につきましては大綱に掲載されているものをそのまま掲載します。ただし、4番の基本目標につきましては若干解説を加えさせていただく予定にしております。
- 5番、6つの基本目標を達成するための16の施策。今のところ16ということで話を進めておりますが、今後検討によっては、項目は増えていくかもしれません。現在のところ16の見通しでやっております。基本目標1というところに例えば施策1と掲げて、(1)、(2)、(3)と、そういう形の仕様で作成をしていくというふうになっております。一つの目標の中に施策が幾つか入ってくる。ただし、目標によっては施策がたくさん入ってくる場所もあれば、比較的少ない場所もあると。これは、基本目標の中身にもよります。
- じゃ、裏面をお願いします。ということで、「基本目標2」「基本目標3」というふうにして、「基本目標6」まで通し番号で施策を起こしていきます。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 三浦市長 ・ 仲川委員 	<ul style="list-style-type: none"> ・ そして最後に、評価としまして、現状がどの程度で、この目標年度までにどの程度達成したいと考えているかということを示すような形で、最後評価をつけたいというふうに思っています。ここまでが計画の大まかな出来映えと言いますか、作り方です。 ・ 今後の予定として、5番、完成までの段取りということで示しました。現在、1番から3番につきまして繰り返し、少しずつですが、審議を進めております。先程教育委員長の話にもありましたが、ここまで5回進めております。この後、教育委員会の中の検討が終わりましたら、④番として有識者会議を開きまして、そこからもご意見をいただこうと思っております。有識者会議が終わりましたら、もう一度総合教育会議を開いて、その中身について、このメンバーでもう一度確認をしていただきたいなと思っております。それが終わりましたら、議会への説明、パブリックコメントをかけ、意見をさらにいただいた上で、最終検討と考えています。ただし、パブリックコメントの期間がおおむね1か月ということもありますので、そうなりますと28年度末までという予定が、現在のところ、4月から5月に若干ずれ込むような感じで考えております。ただ、冊子の印刷になりますと、時間かかりますので、9番につきましては少し遅れるかもしれませんが、現在のご時世ですので、文言さえ固まれば、データで各学校や、あるいはホームページに掲載ということで先行的に発表することは十分可能かと思っております。特にすぐに必要だと思われる学校現場につきましては、でき上がった段階ですぐにデータ配信して、活用していただくようにしたいと考えています。ということで、当初の日程よりも少し遅れてしまって大変申しわけないのですが、そのような日程でお願いしたいと思っております。以上です。 ・ ありがとうございます。 ・ まず、今事務局からの説明ありました、振興基本計画のページ立て及び内容的な部分におきまして何かご意見、ご質問等ございますか。 ・ 事務局の方の説明で「日程が少し遅れた」という話がありましたが、大幅に遅れたというふうに理解を変えた方がよろしいかなと思います。昨年のこの総合教育会議の席上で、事務局の方はこう発言しました。28年の4月、昨年の4月に有識者による会議を、検討会議を組織する。3回程度会議をもつんだということを言われました。10月には中間報告を上げる。12月には議会に説明し、パブリックコメントも求める。2月に最終案を取りまとめ、総合教育会議を経て、3月に正式策定をし、4月から実施するのであるという手順を示していただきました。大変いい手順だなというふうに考えておりました。その後、まったくこの音が聞こえて来なくなりまして、教育委員としても大変心配をしまして、その都度、いつになるんだ、いつになるんだという問い合わせをしておりましたところ、11月ぐらいにはスタートしたいというような話もございましたので、期待しておったんですが、ここまでずれ込んでしまった。我々も時々意見を言いながら、催促をしたりして今現在あるわけですけれども、正直申しますと、せつかく昨年度1年かけて佐渡市
--	--

<p>・三浦市長</p> <p>・山田管理主事</p> <p>・三浦市長 ・仲川委員</p> <p>・三浦市長</p> <p>・佐藤委員長</p>	<p>の教育大綱を作った。この教育大綱を有名無実のものにしないために、この教育基本計画があるというふうに私は認識をしております。是非、「仏作って魂入れず」ではなく、しっかりと魂を入れた基本計画にして、具体化をしていてもらいたい。そのために我々も働きたいというふうに考えておりますので、市長さんの方もご理解いただいて、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先程の話の中には、有識者の検討会議の回数が一切話されておひりませんでしたので、そこら辺りもう少し具体的にお願ひをしたいと思ひます。 ・ ありがとうございます。 ・ その辺ちょっとスケジュールのずれた、一番ここまで後倒しになった部分の要因及びその有識者会議の今のご質問について、事務局の方でご説明いただけますか。 ・ 事務局案の方は比較的早目に作成をして、話し合ひをしたいというふうに思っていたのですが、なかなか会議の方のセッティングがうまくできませんで、最初のスタートが遅れてしまったというのが実情です。それから、有識者会議の方ですが、ここまで来ますと、2月の段階で1回やるのが精いっぱいかなというのが正直なところですよ。以上です。 ・ ただ、その1回こっきりというのは… ・ そうなんですよ。 ・ 今の件でもう1つお願ひをしたいんですが、前市長との総合教育会議の最後の時ですよけれども、前市長は確かこういうことを言われました。「実は教育改革というのは教育委員会でやっていないんですよ。やっていません。これは総合政策課の方で今中心にやっていますので、教育委員会の中でやると非常に狭くなるもんだから、そういう意味でこっちでやっています。」こういう発言を伺いました。つまり、言いたいことは私理解しているつもりですよ。教育委員会だけではなくて、市長部局の方でもしっかりと考えながら、両者の意見を闘わせ、或いは理解しながらやっていくものだというふうに考えていますので、ぜひ市長部局の方も協力をしていただいて、例えば今日は、私の見る限り、総合政策課の方は見えていないんじゃないかなというふうに思ひますが、いかがでしょうか。しっかりと声がけをして、こういう大事な時には顔を見せるようにしていただきたい。場合によっては意見を求めたいというふうに考えています。 ・ はい、わかりました。 ・ スケジュール面で言ひますと、これだけちょっと後倒しになった結果、有識者会議が1回、何とか4月にまとめ切り、最終検討に入りたいという部分のこのスケジュール感について、要するにとにかく年度末よりも1、2か月遅れるところで何とかしようという方がよいのか、そこはもう少し、もう少し後倒しになるうが、しっかりと検討を詰めた方がよいのか、両方の考え方はあるとは思ひんですけど、その辺はどうなるんですかね。 ・ 昨年度の総合教育会議の会議録も読ませてもらいました。また各ホー
---	--

	<p>ムページ、佐渡市のホームページにも記載されている、年度当初の教育政策等にもあるとおり、計画どおりに進めていく、これがやっぱり建前というか、していかなくちゃいけないことだろうと思っています。現段階をさらに進めながらですね。事務局からの各ビジョン、それから各部署の計画、そして具体的な取組等を確認しながら進めていく中で、かなりまだ時間がかかるだろうと。ただ、ここにあるとおりにゴールはもっていきたいと、こう思っております。若干この後半、やや乱暴かなという部分も、緻密さにちょっと欠けはしないかというところはあるんですが、できましたらこの方向で進めていければこう思います。そういった気持ちも込めて、先程1回でも多くのこの会議をご都合いただいて、進めて行きたいなど。これがやはり私たち立場ある人間が、やりますと言ったからには極力全力投球して、それは果たす努力はしなくちゃいけないだろうとこうと思っています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 三浦市長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今、委員長からこういう意見出たんで、ついでに私からもちょっとご意見を踏まえて聞きたいんですが、1つは有識者会議そのものが1回しか開けないという状況になったとしても、例えば実際2月、3月にかけての教育会議をどの程度の回数、頻度を想定しているのか。特に議会への説明段階では、かなり、ある程度もう煮詰まった形に持っていったくないと、いろいろまた出てくる部分もあると思いますし、それとパブリックコメントを踏まえた以降の最終的な詰めを検討も回数的にどの程度は確保した方がいいんじゃないかとかいう意見をあればいただいて、それに則ってスケジュールを逆算していく方がよいのかなと思うんですが、その辺はどうでしょう。事務局の方のお考えはどうか。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 山田管理主事 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今のところですが、⑤の「検討4（総合教育会議）」というのはこれ1回というふうに考えています。そして、8番の最終検討（総合教育会議）も1回というふうに考えています。ただ、当然ですが、総合教育会議にかける前に事務局案を教育委員の皆さんと再度検討して、それを修正したもので総合教育会議にはかけていきますので、複数回の検討はその中に入ってくるというふうに考えています。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 児玉教育長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本計画の策定が、大幅に遅れているということは、申し訳なく思っております。このスケジュール案をもとに、この後、市長部局とのすり合わせの部分も必要などありますので、その辺りはできるだけ速やかに市長部局ともいろいろ協議させていただきながら、また教育委員会の中で文言と政策等についてご意見いただきながら、3月中にはパブリックコメントというような形でもっていければというふうに思っておりますので、よろしく願います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 三浦市長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これ、ざっくりですけど、有識者会議は2月上旬ぐらいのイメージなんですか。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 山田管理主事 ・ 三浦市長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中旬から以降にはなってしまうかなと思っています。 ・ 中旬以降。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 山田 管理主事 	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 三浦市長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ そうすると、有識者会議を踏まえての検討が時間ばつばつになりますよね。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 児玉教育長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ できるだけ早く有識者会議をしたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 三浦市長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ そしたら、極力ちょっと早目に、このそれぞれの有識者会議からを含め、教育会議そのものへの検討会も含めて、ある程度の目標の、例えば少なくとも上旬、中旬、下旬ぐらいに分けて、ちゃんとスケジュール感を作って、委員の皆様には全部連絡して、確認で日程調整を早くした方がよいと思いますので。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 吉田学校教育課長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい、わかりました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 三浦市長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ よろしく願いいたします。 ・ 他何かございますか、この件につきまして。よろしいですか。 ・ じゃ、今ご意見いただいたものを踏まえて、また事務局の方から近日中にスケジュール等、もう少し詰めたものを委員の皆様には連絡させていただくようにしますので、ご協力をお願いいたします。 ・ では、次の議題に入らせていただきます。2番目、学校統合についての協議です。学校統合計画の見直しの今後の方向性について、事務局の方から説明していただきますので、よろしく願いいたします。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 吉田学校教育課長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ それでは、資料ナンバーに沿いましてご説明させていただきます。 ・ まず、資料ナンバー2、縦の佐渡市小中学校統合の状況ということでございます。計画につきましては、ご存じのとおり、平成18年度から29年度の12か年計画となっております。表の上段に記載してございますけれども、平成28年度の下のところ、今現在小学校24校、中学校13校でございますが、計画ではこれをそれぞれ小学校17校、中学校を10校とするものでございます。 ・ 表の全般的な見方でございます。左が計画策定当時の状況でございまして、当時の児童生徒数と、あと閉校をかなりしておりますので、閉校した年月日、並びに閉校時の児童生徒数を括弧書きで記載してございます。あと、右の平成28年度の欄でございまして、色塗りの箇所がいわゆる計画期間内の統合ができなかったケースでございまして、①の両津地区の小学校の統合から一番下、これは南部地区の中学校の統合までのパターン、6パターンがございまして、これを含めまして、また後ほど説明をさせていただきます。 ・ それでは、資料ナンバーの3-1をご覧ください。資料ナンバー3-1は、小学校の児童数の推移でございまして、裏表がございまして、先程の資料2の色塗りの部分でございまして、この表につきましては、左の方がクラス数、右の数字が児童数となっております。今現在把握しておるそれぞれの学区の未就学児童の人数を基に、今後6年間の、34年度までの推計となります。 ・ なお、複式学級の箇所につきましては、①の両津地区小学校児童数推移

の、両津吉井小学校、平成34年度のところに網かけがございます。これが複式学級でございます。

- ちなみに、今現在の新潟県の学級編制の基準でございますけれども、左下の方に記載してございます。1・2年生が32人以下の編制になります。3～6が40人以下の編制です。複式学級につきましては、隣り合う2つの学年の児童数が16人以下の場合は2学年の1学級編制となりますので、複式が発生いたします。人数的には8人、9人で17になりますので、これで複式が解消ということになります。ただし、1年生の新入児童につきましては8人以下になりますと1学級編制となり、これは若干違う、1年生はある程度の配慮がされております。
- その下の※印、新潟県少人数学級パイロット事業がございます。この事業につきましては、昨年度の総合教育会議でも幾つかご説明しましたが、再度ご説明させていただきます。このパイロット事業については、小学校3年から中学校3年の1クラス当たりの児童生徒数が36人～40人となります学級については35人以下の編制を実施をしているところでございます。
- なお、下にただし書きがございます、教育上の配慮から1クラス当たり25人を下回らないものとなっております。例えば1学年41人の場合は、先程の基準のとおり、41人を超えておりますので、21人と20人の2クラスになります。これが40人の場合ですと、これ2クラスに分けても20人、20人となり、ただし書きの25人を下回るため、パイロット事業は適用されません。適用される事例としましては、例えば75人の場合は、これを2クラスに分けますと38人と37人になり、先ほどの条件に合致いたします。また、これを3クラスに分けても3クラスとも25人の編制になりますので、この場合で初めて条件がクリアとなりまして、1学級の増加ということになります。したがって、1学年75人から80人の場合はパイロット事業が適用されると、2クラスから3クラス編制になります。
- なお、現在小中学校の統合計画におきまして、1学級75人以上となる統合パターンは今のところございません。
- 次に、資料ナンバー3—2をご覧ください。縦の表でございます。中学校の生徒数の推移でございますが、推測可能な平成40年度までを記載してございます。学級編制の基準につきましては、一番下のところに記載してございますが、先程小学校1、2年は32人以下と言いましたが、小学校3年生以降になりますと40人編制になりますので、中学校については40人以下編制ということになります。一方、複式学級につきましては、隣り合う2つの学年の生徒数が今度は8人以下の場合は2学年で1学級編制となります。
- 先程ご説明をいたしましたパイロット事業につきましては、今現在佐和田中の3年生がこのパイロット事業の適用を受けまして、1クラス増加になっております。
- ちなみに、この表の3—2の下の方、下から3つ目に新穂中と金井中の統合の生徒数の推移がございますけれども、ここに網かけで3、3、3とい

うふうに数字が入っておりますけれども、ここが統合するとパイロット事業が適用されまして、学級数が増えるということでございます。これは、そのような表でございます。

- ・ 続きまして、これまで①の両津地区の小学校から⑥の南部地区の中学校2校までのこれまでの現状につきまして、おさらい的な流れになりますけれども、お話ししたいと思います。先程の資料3—1をご覧ください。
- ・ まずは、①の両津地区の統合でございますが、実は平成25年度に両津吉井小学校に対しまして、加茂小との統合について事前の協議をかけました。しかし、平成22年当時に『両津吉井小学校存続に関する要望書』というのが学区の総意として提出されておりました。また、当時推測いたしました児童数の推移から、平成28年度以降、当面の間、複式学級の解消が見込まれるということから、その辺を総合的に判断をし、後期統合計画期間内に向けましての統合協議は一旦見送った経過がございます。
- ・ なお、参考でございますけれども、資料ナンバー2、最初の表を見ていただければと思います。資料ナンバー2の両津吉井小学校の状況でございますが、ナンバーが5になります。黄色の欄のナンバー5をごらんください。右側の方に比較の表がございますが、この両津吉井小学校区だけが全体を通じて子どもさんが減っていないという地区になります。この表から、また資料3—1に戻りますけれども、児童数の推移をご覧いただきたいと思っておりますけれども、28年度から33年度までの間は複式学級の解消が見られます。34年度以降になりますと、発生の見込みが見えます。
- ・ 続きまして、②の相川地区小学校の関係でございます。相川地区につきましては、実は現在合併特例債の発行期限というものが5年間延長されておりました、平成30年度までとなっております。当時統合協議をもちかけた21年当時につきましては、その発行期限が平成25年度末でございました。相川地区については、この合併特例債を利用しました相川小学校の全面改築に伴い、相川小、七浦小、金泉小の3校統合計画ということで協議をさせていただきましたが、七浦小、金泉小ともに統合反対の決定となり、現在に至っております。
- ・ なお、今相川小学校は改築中でございますけれども、既に完成しておる校舎の普通教室の数は、3校統合の児童数の見込みと、そのようなものではございません。3—1の表に戻りますけれども、七浦小、金泉小ともに、今後、複式学級の状況が続いてまいります。統合では、普通教室が不足するという施設的な課題がございます。一番下の3校統合の人数をお示ししてございますけれども、ちなみに平成32年度までは6学級以上となっておりますけれども、33年度以降になりますと、これが通常学級6学級にとりあえず落ちつくということになっております。
- ・ 続きまして、裏面をご覧ください。佐和田地区の小学校統合でございます。佐和田地区の統合につきましては、八幡小、沢根小、河原田小、3校の

統合協議を行いました。八幡小学校が統合の反対を決定し、その後、沢根小と河原田小の2校につきまして平成30年度に統合ということが決定をいたしました。八幡小につきましては、耐震補強工事を平成30年度に今のところ予定をしております。したがって、こういった事情もございますので、当面の間は単独校として存続するということとなります。ちなみに、八幡小の複式学級の状況でございますけれども、平成28、29年度と複式学級が発生しますけれども、それ以降につきましては、今現在学区の子どもたちがすべて八幡小へ行くとする、当面の間、解消の兆しが見えます。

- ・ 小学校の最後でございます。新穂小学校と行谷小学校の関係でございます。新穂小学校につきましては、実は平成22年度に全面の改築をいたしました。改築事業につきましては、旧新穂村から佐渡市に引き継がれたものでございまして、統合を予定しておる規模の校舎ではございません。行谷小の複式学級については、この表で確認できますけれども、現在5、6年生で発生しております。この複式学級の発生につきましては、平成26年度から順次発生しておるものでございます。今後、後期の統合計画を進めるに当たりましては、児童数の推移から、平成29年度以降に一旦複式学級の解消の兆しが見えます。29、30、31年度と複式学級の解消が見えます。そして、当時の推計では平成29年度の新入学児童が、一番下の行谷小学校と新穂小学校の平成29年度の小学1年生、今現在32人でございますけれども、当時の推計は35人と、2クラスに分かれるのではないかとというようなことがございました。これは教室数が不足するという判断をしまして、後期の統合の計画は難しいということで、実際の具体的な協議には至っておりません。なお、平成32年度以降、行谷小学校の複式学級が始まりますので、今後、複式学級の解消に向けました統合につきましては、その年度以降ということが考えられます。
- ・ 続きまして、中学校関係に参ります。資料3—2でございます。縦の表です。国中の4中学校の統合につきましては、計画では4校を2校とするものでございます。今現在、その統合の組み合わせとか統合先の校舎については、検討等はまだまだしてございませんが、金井中学校につきましては、当時の統合計画上では、統合方針の基本方針にもございます2クラス編制で単独校として存続する可能性がある学校と位置づけられております。したがって、統合計画を進める際に使用する校舎につきましては金井中が間違いなく使用になります。残り3校のいずれかにつきまして、利用可能な校舎を利用するような統合になります。ちなみに、今現在の利用可能な普通教室数としましては、金井中が10、真野が8、畑野、新穂それぞれ6ということになっておりますので、今後、統合校として存続していく学校につきましては、統合後の普通教室の数並びに特別支援教室の確保も十分に考える必要がございますので、そういった学級数から判断していくことになろうかと思いません。
- ・ 裏面、一番最後でございますが、南部地区の中学校の統合でございます。

南部につきましては、小木中、羽茂中、赤泊中の3校の統合協議におきまして、赤泊地区が統合に反対をし、結果、小木中、羽茂中の2校が平成26年度に新設、南佐渡中学校として統合いたしました。

- ・ なお、24年度当時の赤泊、羽茂、小木の3地区で構成しておりました南部地区中学校統合検討委員会におきまして、将来赤泊中学校が南佐渡中学校へ統合する時期については、南佐渡中学校の統合後おおむね10年間は見送るということが決定をされております。
- ・ 今現在の南佐渡中学校の状況でございますけれども、真ん中のところに生徒数の推移が書いてございます。平成26年度統合当時は各学年2クラスの編制でございましたが、27年度は2学年、28年度、現在でございますが、ご覧のとおり1学年のみが2クラス編制となっており、29年度以降から当面の間、1クラスの編制ということが今後の状況から窺えます。
- ・ 以上が今現在各地区におきます状況でございます。
- ・ 最後に、資料ナンバー4をご覧ください。これまでの説明等を踏まえまして、今後の見直しの方向性としまして、あくまでも素案、たたき台ということでお示しをしたいと思います。
- ・ 見直しの方向性としましては、統合は現在の計画のとおり小学校は1学年1学級以上の通常学級6学級以上、複式学級の解消を図ってまいりたいと考えております。中学校につきましても計画同様に1学年2学級以上、通常学級6学級、いわゆるクラス替え可能な統合を基本としまして統合を進めていくこととします。
- ・ ただし、統合計画につきましては特に期限等を定めることはしません。複式学級の発生状況や、児童生徒数の推移並びに先程ご説明しました学校施設、受け入れの教室等の現状も当然考える必要がございますので、この辺りを踏まえながら、それぞれ組み合わせに応じました統合時期を決定していきたいと、そのように考えております。
- ・ さらには、統合の決定に当たりましては、従前どおり、保護者及び地域の合意を得ながら進めていくことといたします。なお、合意が得られない場合におきましても、一旦これは統合を見送ることになりますが、その後、児童生徒数が大きく減少していく状況が見えた際につきましては、統合協議を再開し、統合に向け進めていきたいと、そのように考えております。
- ・ 次に、統合を進めるに当たりまして検討が必要ではないかと思われる事項を2点ばかり記載させていただきました。学校統合は、児童生徒、また保護者にとって教育環境が大きく変化することとなります。小学校統合を経験した児童、保護者につきましては、また中学校の統合を経験させないと、このような一定の配慮が必要ではないかと、そのように考えました。
- ・ ※印のところ深浦小を記載してございますけれども、深浦小については平成23年の4月に小木小学校へ一旦統合いたしました。その後、小木中学校と羽茂中学校が平成26年度に南佐渡中学校として統合した経緯がございますので、深浦小の子どもさんにつきましては深浦の閉校並びに小木中の

<p>・ 三浦市長</p> <p>・ 金子委員</p>	<p>閉校と、このようなことを2度経験をしております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なお、今後、国中の中学校の統合に関しましての留意事項がございまして、今の件に即しますと、平成25年の4月に小学校の統合、金井地区と畑野地区の統合を行っております。この際、平成25年の当時、これ小学校の2年生の児童が中学校を卒業する年度は32年度となりますので、今後予定の新穂地区の小学校の統合についても同様の背景がございまして、新穂地区の小学校の統合は終わっておりませんので、国中の4中学校の統合には、こういった配慮が必要ではないかと事務局では考えております。 ・ それと、②につきましては、3つの学校を1つにする統合、この後、相川小学校が残っておりますけれども、仮に1校が統合しない場合におきましては、当該学校が将来的にまた統合する時期については、南佐渡中学校のように同様な検討が必要ではないかというふうに考えております。学校にとりまして、統合協議や事務調整等につきましては膨大な労力を要することから、一定の期間を開けるといような配慮が必要ではないかというふうに考えました。 ・ 以上、この配慮を含みます2点も統合時期の決定の際に検討に加える必要があるのではないかとというふうに考えております。 ・ なお、参考でございますが、資料ナンバー4の裏面に、過去に学校統合を経験をしました学校現場の方にアンケート調査を実施をしまして、その結果を記載してございます。説明につきましては、時間の都合で割愛させていただきます。 ・ 私の説明は以上です。 ・ ありがとうございます。 ・ まず最初のこれまでの現状の数字的な資料及びここまで未実施になっている現状等の部分について、不明な点等あれば質問していただきまして、その後で今後の方向性についての意見交換をさせていただければというふうに思います。まず、もろもろのデータ等、これまでの現状、経緯についてご質問等ありましたらよろしくお願いたします。 ・ よろしいでしょうか。 ・ では、全部、その辺もまたありましたらどんどん言っていただければ結構ですので、今最後の方で事務局の方からありました今後の計画の考え方について、皆様のご意見をいただいた上で、この素案を今後また修正等々作業したいと思います。その辺でちょっとご意見をそれぞれお伺いしたいと思います。 ・ 金子さんの方からよろしいですか。 ・ 学校統合計画の見直しについての素案については、私は大変いいと思っています。実際に南部地区に住んでいますので、南佐渡中学校の統合というのを、私自身は子どもはもう卒業していましたが、地域の住民の1人として経験しました。やはり統合される側と言ったらおかしいですけども、学校がなくなる地区の住民としては非常に寂しい感じもありますし、反対意見が
-----------------------------	---

出る、特に卒業生がそのままそこに残っているというのがほとんどですので、反対意見も出ますし、地元住民の寂しく思う気もちもわかるのですが、やはり子どもさんのこれからの成長とか教育環境を考えると、統合というのは必要であったと思います。最初の1、2年はやはりお互いに、統合した、学区が違う、旧行政区の違う学校の統合でしたので、いろいろとありましたが、やはり子どもさんはもっともっと、大人が考えるよりも、環境適応力があるというか、統合してしまえば、やはり交友関係も広がって、非常にいい関係が保てているように思います。見ているとやはり行動半径も広がりますし、そういうのを見ていると、やはり住民の合意というものは非常に重要だとは思いますが、やはりその方が子どもさんの将来、教育環境について、いいというふうな判断を、教育委員会の方でちゃんと検討して、つけたのであれば、そこは統合を進めていかなければいけないのではないかと考えています。

・ 三浦市長

・ ありがとうございます。

・ 中村委員

・ 中村さん、いかがですか。

・ 方向性については、私もこの方向でよいのかなと思います。

・ 私は畑野に住んでおりますので、実際に中学校がどうなるのかなというのを数年前からお話が保護者の中で出ておりました、その辺を十分な説明と、あと必要性、どうしてその統合が必要なのかというところをはっきり保護者と地域の方に説明をしていただいで、統合を進めていただければなと思っております。

・ あと、見通しとして大体このぐらいを目途にということも一緒に説明してもらおうと、保護者も少し、それまでは猶予があるんだなという気もちをもてますので、おおよその見通しも一緒に上げてもらえると嬉しいかなと思います。

・ 三浦市長

・ 仲川さんはいかがですか。

・ 仲川委員

・ 昨年度の総合教育会議の中に、前期が終わり、後期の途中であるが、今ここで状況も最初の計画から変わってきているので、一旦見直しの時期に入ろうということで、全員一致しまして、それについては了解をしたところです。その時に事務局の方からは、後期の後に再度もう1つ、2次計画に踏み込んでいきたいと、それを28年度中に何とかという話がございました。今年まだ、実は28年度ですけれども、そこまで行っておりませんので、我々としての意思統一も遅れているという段階だということ私は認識しております。市長さんの方でもぜひ教育委員会とまた話していただいで、事務局と話していただいで、この2次計画がどうなるのか、どうなっているのかということ詰めていただけるとありがたいなと思います。

・ それから、保留になっていたのが、2次計画を作るに当たって再度検討委員会を設けるかどうかと、これについても保留になっておりましたので、これも今後詰めていかなきゃいかんことだろうというふうに考えております。

<p>・仲川委員</p>	<p>筋道の立て方と、あと見通しのところをどのように全体に説明していくかというのが非常にセンシティブな部分になってくるのかなと思うんですけど。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今市長さん言われたのが恐らく一番大きなネックになるだろうなというふうに考えます。合意というのは非常に美しい言葉だけれども、様々なことで100%の合意というのは普通はあり得ない。普通はあり得ないことをやろうとしているわけですから、努力はすべきだ。ただ、ある程度のところへ行ったら、権限のある人間がしっかり決裁すべきであるというのが私の考えです。 ・ それから、地元合意、地元という言葉ですが、実はある会議に出た時に、社会教育の会議でしたけれども、我々はよく郷土愛とか郷土意識と言うんだけど、我々の今もっているのは郷土愛じゃないんじゃないか、地元愛じゃないか。小さな地元、小さな地域に対する愛着はあるけど、これを旧市町村の枠を取っ払った時に本当に郷土愛はあるのかというような言い方をした人がいます。漠然とした言い方ですけども、今後、地元をもう少し大きく見て、佐渡全島という考えを皆が持てるように、我々自身が変わっていく、そういう方向にいった欲しいなと思います。
<p>・三浦市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 結局合併して13年。もう13年経ちますけど、そこのところが崩れていないのがやっぱり一番大きいんだと思うんですけど、これもたたき台の意見、自由にということであれなんで、私自身もちょっと意見言わせていただくと、現状、島内で学区割りをしているのが全部旧市町村単位なんですよね。そこは手つかずでよいのか。地域によって一部移動させることを考えた方がよいんじゃないかという部分も私の中には少しありまして。例に出してはいけなかもしれない。例えば七浦、相川を例にとってみると、例えば二見地区の人でも、相川の方が近い人と佐和田の方が近い人というわけですよね。例えば松ヶ崎なんかだつて、あれ畑野の区割りですけど、赤泊の方がはるかに近いんですよね。そういうような部分で、それはいわゆる旧市町村というよりも、いわゆる子どもの教育環境のためにこういう区割りにするんだということをしっかり組み立てて説明すれば、旧10市町村単位の学区を少し直せる可能性があるのかなと自分では思ったりしていますが、その辺はいかがなんでしょうか。特に小木なんかですと、例えば深浦とかが小木と一緒になると、それで今度羽茂までつて、すごく遠くなったわけです。これは小木の中ですけど、そこをちょっと、特に特徴のある地域、ちょっと区割りの中でも非常に遠隔地にあたる地域については違う考え方で、保護者の人らの合意とか、実際の通学距離とかというのも、とれるんじゃないのかなと思ったりしてしまうんですけど、どうなんでしょうかね。
<p>・児玉教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際、旧両津市の岩首、柿野浦辺りでしたか、あの辺りのお子さんは松ヶ崎の方の学校に実際通学しています。あそこは、旧学区からちょっと外れた、子どもたちの通学の利便性というんでしょうか、それが優先されたわけですね。確かに市長おっしゃるように、子どもたちのいろんな負担とか、学区の見直しと言いましょうか、そういうのは一つの方法だと思います。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 三浦市長 ・ 佐藤委員長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大胆に変える必要は全然ないと思うんですけど。 ・ 私も、これから統合は特に学区の見直しと言いますか、可能かどうかはハードルは高いと思うんですが、ある程度必要になる、弾力化も含めて、必要になってくるだろうと、こう思います。やはり子どもも当然学校から帰れば地域の子どもですし、地域には地域の行事が、世代を超えた文化があるものですから、そういった中で校区を変えることで、通学区を変えることで、その文化に所属したり、所属できなかつたり、いろいろなそういうことは実際に起きますよね。特に伝統的な行事を抱えている地域は。したがって、そういった、先ほど市長さんがおっしゃいました、あくまでも教育、学校教育の場の見直しという観点であれば、また違ってくるだろうと思います。これは、幾つか、これまでもいろいろこういう問題はあったわけでありまして、こういう話し合いをした時に「家へ帰ってはこれは言えないよね」という保護者の方もいらっしゃいました。佐渡であるとかないとかではなくて、どこにでもあると思うんですが。その世代によって考え方が違うがために、この話をすると家庭崩壊を起こすという話で、文科省もうまく言っているな。「子どもや保護者が受益者なのだから、その意向をよく聞いて」というような表現にされておりますが、うまいなと思っております。地域の文化というものを考えると、なかなか難しい。その辺り、割り切れることができれば、割合いいのかな。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 三浦市長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 例えばそういう部分を各地区、ちょっとそういうのに当てはまっちゃいなような地区について、うまくちょっとヒアリングなりなんなり、いろんな意見収集ってできないものなんですかね。どうなんでしょうか。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 金子委員 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南部の南佐渡なんですけれども、小木地区の子は幼稚園、保育所から小学校まで小木おけさを習います。羽茂の子は佐渡おけさを習って、南佐渡で合体するんですけど、最初の年度はやはり佐渡おけさを習ってきた子は小木おけさがわからない、小木おけさの子は佐渡おけさがわからないということで、またその保護者の間にもやはり、自分達は小木おけさだと、こっちは佐渡おけさだというのがあって、結構軋轢もあつたように聞いているのですが、やはり子どもさんたちというのは本当に環境適応力があって、お互いの祭り、小木まつり、羽茂まつりをうまく両方体験できるようにすることで、そういうハードルも、確かに高いハードルでありますけれども、越えられないものではないんじゃないかなと。 ・ 一度、南佐渡中学校の統合を経て、1年後でしたか、意見交換会のようなものを開かれましたけれども、今後その地区だけではなく、そういう統合を経験した地区の保護者とか生徒さんなんか、新しく統合を計画されているようなところに出かけていって、体験談をお話するとか、そういう場を作ったりすることで、また少しハードルも下げられるのではないかと。文化を残すということも重要ですし、やはり地域行事としてのお祭りというのはすごく、周辺部に行けば行くほど思い入れも強いです。おじいちゃん、おばあちゃんから、お父さん、お母さんからずっと地域行事を守ってきたという

<p>・ 中村委員</p> <p>・ 仲川委員</p> <p>・ 三浦市長</p>	<p>で、ここの数字的に言っても本当に直近で統合を実現しなきゃいけない部分と、まだ8年、10年先の部分の、中学なんか今すぐ云々ということではない部分もあるんですが。その辺のところでは、例えば、何年かはわかりませんが、一定の、この期間、何年度から何年度までの間ではここの統合はもう具体化して実現させたいという学校になります。そこから先、この何年度から先については、変に被害妄想を抱いていただかないように、今後検討が必要な学校とかいうぐらいにするのか。どうしても「統合計画」と並べちゃっていると、どの年度とか、年度にずれ、かなり差があっても、自分らのところもすぐやられるみたいな意識をもつ地域も、すぐ噂になっちゃう地域も多いと感じているんです。その辺はいかがなんですかね。国中なんかかなりすぐ噂になっていますよね。中学校。どうなんですかね、その辺。</p> <p>・ でも、実際に教育委員会さんが出した統合計画が佐渡市PTA連合会の方に下りてきていて、何年にどこが統合、何年にどこが統合、30年にはここが統合みたいな、その表がPTAの方の会長、連合会の方に下りてきているので、そういうところで少し話が出ていて「この頃には統合されるんだね」という話を保護者間ではしました。ですので、そこが話が出てきて、でも「説明会も、あったのかな、やっていたのかな」みたいな、「どうなるんだろうね」というその不安と共にいるので、やはりそこはお示しをいただきたいな。市長さんがおっしゃるように、この後、検討事項として、「この何年間で検討していきます」というものなのか、「この5年以内には説明をし、合意を得て統合します」というものなのかをお願いしたいです。</p> <p>・ 中村委員の言ったのは非常にいい視点だと私は思っているんですが、物事を進める時に、意見調整も何もしないで、すばんとやってしまうというのは、こういう行政ではあり得ない。だから、その心構えを皆にもってもらい、議論に載せてもらうということが大事なので、その計画を示さないでやっちゃ私はいけないと。だから、示すならちゃんと示して、それぞれの地域で議論してもらい。そのための計画。だから、漠然と、やるような、やらないような示し方しちゃいけないというふうに思います。だから、何年まではここまではやりたいと、その次はここまでのことを議論していきたいという方向性をちゃんと持ってもらうなきゃ、そして示さなきゃいけない。</p> <p>・ じゃ、何年ぐらいに統合するんですか、統合する場合はどこの校舎になるんですかとかいう問いかけに説明もできないものを統合計画の中に一緒に入れちゃうと、どんどん膨らんでしまう気がするんで、想像がというか。国中なんかでも、保護者じゃないにしても、聞こえてくる。特にお年寄りの人から聞こえてくるのは、国中なんかで言うと、例えば真野と畑野が一緒になる、校舎はどっちだ、校舎は渡しちやいかんという話にすぐいっちゃうんですよね。それは、ちゃんと描けていないまま、統合の噂だけがぼんと先にいくから、そういうことになると思うんですけど、そういう意味では、何年計画の中でちゃんとハマって、具体的にしっかりと理由も含め住民説明もできる統合計画と、今後具体案を練る将来計画というのは切り分ける方がより</p>
---	--

<ul style="list-style-type: none"> ・ 吉田学校教育課長 	<p>丁寧なのかなというのは思ったので、ちょっと聞かせていただいたんですけど、その辺、事務局はどうですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ そういった結果がこうやってずっと流れてきたようなことがあるんですが、各地区の方から、統合計画は29年度で終わるはずなのに全然話もないけど、どうなっておるんだという話が多く聞かれたため、27年度に、これまで着手しなかった、先ほどちょっと手がつけられなかった地区へ一斉に説明に伺いました。その際、特に国中の中学校については、書いたものが4校を2校ですので、先ほど金井中学校については当然残る校舎として言及もしましたけれども、やはり各地区においては、自分のところはどうかとか、かなりありました。小学校の統合は、具体的にこことここというのがかなり絞り込みがされておりますが、国中などではやっぱり保護者の不安感というのはかなりあったと、そのように感じております。今後は、やはり先程の市長の説明のように、ある程度決まったものについてはこのように進めていくべきですが、まだファジーな部分については、将来的にまだ検討を要するという組み合わせでおくことも一つの方向性かもしれません。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 三浦市長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何かそっちを変に誤解されることによって、直近でやらなきゃいけないものもこうなってしまうのがもったいないなという気もしないでもないんです。そういうような具体的にこういう、最初の説明の資料であった、要するに統合計画になって、まだ未実施になっている中の部分も含めて、その辺のちょっと棲み分けももう少し明確にするのも、この中で揉んでいきながらということでもらせてもらってよろしいですか。その方が最終的にはいい結果になるのかなと思ったりするもんですから。ちょっとその辺で今日のを踏まえて、こういう考え方でというのを、ここをもう一回事務局で修正して、委員の皆様にもまた読んでもらって、そこで意見を早目にいただくようにしてもらえますか。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 吉田学校教育課長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ わかりました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 三浦市長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今日の議題として、それ以外で、この際という感じで何かございましたら。今後、時間が切羽詰った中でお願いしなきゃいけないんで、こういうところだけはちゃんとやってくれというのを含めて、あればご指摘ください。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲川委員 	<ul style="list-style-type: none"> ・ では、1つお願いします。市長さんお聞きになったかと思いますが、新潟県教育委員会が平成27年12月1日に県立高校の将来構想という案を出して、ホームページにも載っています。それによりますと、平成28年度の県立高校の佐渡地区の募集学級数が13ありますけれども、平成39年、10年後の姿は募集学級は11であると、こういう発表しております。35年度から39年度の間には普通科系の高校を統合すると、こういう計画を出していて、その説明会がこの27年の12月に佐渡でありました。切羽詰った状況じゃないかなと私考えていますので、将来の、佐渡の中学校を卒業した子どもたちの大多数が佐渡島内の高校へ進学するわけでありますので、重要課題の一つだろう。これも、こういう総合教育会議の議題に載せていただければありが

	<p>たいなというふうに思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> この話題が出る時に私いつも言うんですが、随分佐渡の人は県立高校の在り方について関心がない。関心が薄い。この案が出た時にアミューズメントで説明会がありましたが、本当に寂しい限り。市の職員も多くなかったなというふうに考えますので、ぜひいろんな意味で自分たちの問題としてこの高校の在り方が考えられるように、我々も努力すべきであるし、市当局もぜひ頑張ってもらいたい。 その流れの一つとして、私、教育委員になって、私の知り合いから、お前達教育委員会で何を話しているんだということをしばしば聞かれます。いや、我々の話していることはすべて公にできるものはホームページに載せている。総合教育会議というものも発足したので、これは市長部局のホームページに載せてあると。だから、是非それを読んでくれというふうに言っているんですが、残念ながら非常にスピード感がない。例えば昨年2月に行われた総合教育会議の議事録は、アップされたのが12月です。10か月経過しています。その前の第3回目が、たしか平成27年の10月に行った会議が28年の12月にアップされました。
<ul style="list-style-type: none"> 三浦市長 仲川委員 	<ul style="list-style-type: none"> 1年が経っていた。 はい、1年以上経過しました。こういうことなんです。せっかく市民に知らせる機会があるのに、手段があるのに、それを活用していない。だから、市民も今何やっているかわからないし、例えば大事な県立高校の在り方についても関心のもちようがないというような状況が起こっていますので、スピード感をもって、重要事項については是非、市民の関心を呼ぶように進めていくと嬉しいなと思います。
<ul style="list-style-type: none"> 三浦市長 	<ul style="list-style-type: none"> どうしても高校になると、佐渡の学校にもかかわらず、県立なんで、教育委員会ではというイメージがどうしても内部的にもあるんで、そこはやっぱり変えていかなきゃいけないと思います。議事録は本当にそこをもう1回お尻叩かせていただきますし、もっと言うと、議事録そのものを掲載しなきゃいけないいろんな諮問委員会等々を含めて、佐渡の公開比率が公開しなきゃいけないものの中の30%もいっていませんでしたので、その辺を含めて今やって、尻叩いているところでもありますので、改めてそこを修正させていただきます。よろしくお願いします。 他よろしいでしょうか。 事務局から何かあります。 特にございません。
<ul style="list-style-type: none"> 吉田学校教育課長 	
<ul style="list-style-type: none"> 三浦市長 	<ul style="list-style-type: none"> じゃ、これで閉会ということにさせていただきたいと思いますが、最後、吉田課長の方からお願いします。
<ul style="list-style-type: none"> 吉田学校教育課長 	<ul style="list-style-type: none"> それでは、本日ご協議いただきましたご意見等につきましては、特に学校統合、いろいろと参考になるご意見ありがとうございました。十分参考にさせていただきます。また先程の文言修正等からまた考えてみたいと思

ます。

- あと、先程市長の申しました、ここまでは必ずやる、ここから先については検討を要する、そのような棲み分けもあわせて考えてみたいと思いますので、次回の総合教育会議に提出するというわけではございませんけれども、まず教育委員会の方に報告をして、本総合教育会議の中で再度揉んでいただくようなスケジュール感を考えております。
- あと、教育振興基本計画につきましては鋭意努力させていただきます。すみませんが、遅れておりますが、また次の機会に発表できるように進めたいと思います。
- 本日にしましてはご協議大変ありがとうございました。
- 以上をもちまして平成 28 年度第 1 回佐渡市総合教育会議を閉会したいと思います。ありがとうございました。

午後 4 時 30 分終了